

《概要版》

第2期下関市観光交流ビジョン

「多彩な魅力に感動が生まれる「にぎわい観光都市 下関」」

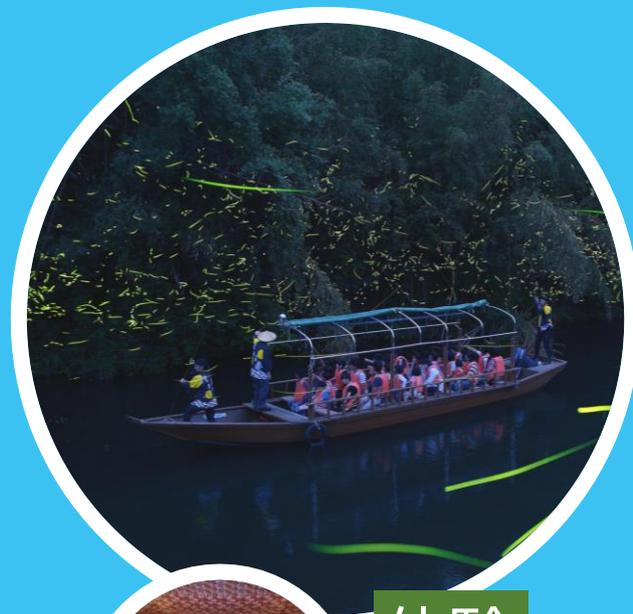
2025
|
2029



観



彩



体験



食



ビジョンの策定にあたって

ビジョンの趣旨

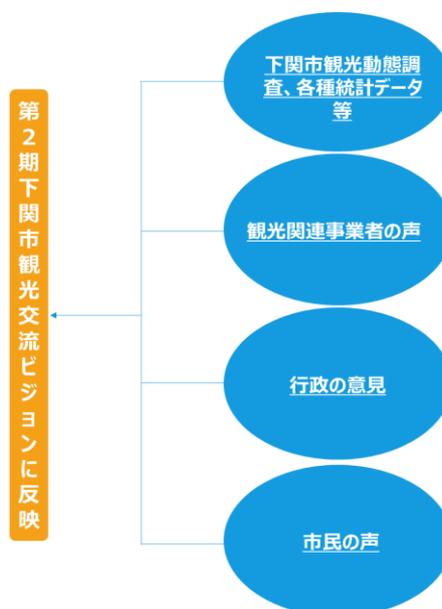
本市では、2012年に本市の観光振興の基本戦略である「下関市観光交流ビジョン2022(期間：2012年～2022年)」を策定していますが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が強く残っていたため、期間最終年に合わせた改定を見送っていましたが、前期ビジョンの策定から12年が経過し、観光を取り巻く環境とともに、観光客の価値観やニーズも大きく変化したことから、これらの変化を踏まえて、本市産業の柱の一つである「観光」の目指したい姿を改めて設定し、その指針となる「第2期下関市観光交流ビジョン」を策定するものです。

ビジョンの期間

2025年度から2029年度までの5年間とします。

ビジョンの策定方法

ビジョンの実効性を高めるため、下関市観光動態調査や各種統計データの分析、観光関連事業者等によるワークショップや公募による市民意見聴取会、また、行政においては関連部局長等で構成する策定委員会を設置し、観光関連事業者等の意見や検討内容を踏まえた協議を行い、ビジョンを策定しています。



観光を取り巻く現状と課題

本市の現状【下関市観光動態調査】

《観光入込客数》

本市の観光客数は、目標設定時から順調に増加し、新型コロナウイルス感染症の拡大前の2019年には711万人となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年は382万人と大きく減少しました。更に2021年も前年を下回るなど厳しい状況が続きましたが、2022年4月からは社会経済活動に関する制限が緩和され、2023年5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行するなど、観光需要の回復の兆しが高まっていますが、本市においては未だに新型コロナウイルス感染症の拡大前の8割程度に止まっている状況です。

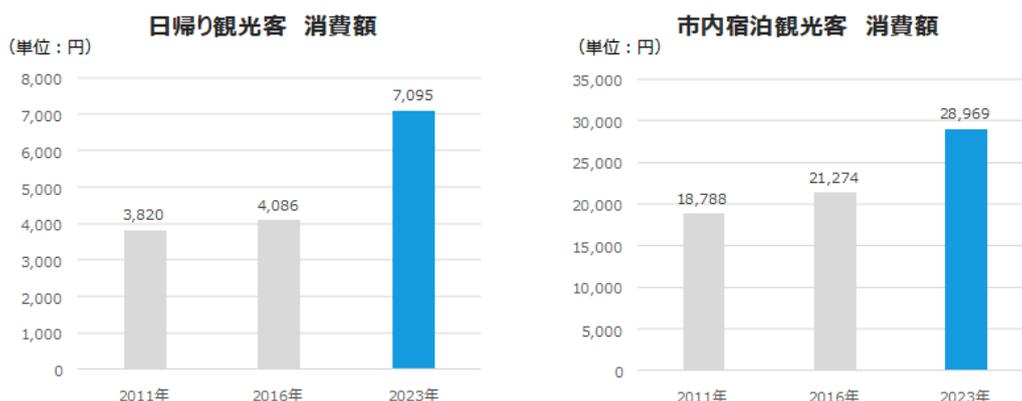


出典：本市観光客数調査(暦年)

《観光消費額》

本市の観光消費額は「日帰り観光客」、「市内宿泊観光客」とともに増加傾向にあり、2011年と比較すると、「日帰り観光客」では85.7%、「市内宿泊観光客」は54.2%増加しています。

増加の背景として、ビジョンの各種施策の展開をはじめとした消費額の拡大の取組のほか、近年の人件費、燃料費等の高騰や物価上昇などの社会要因が考えられます。



出典：下関市観光動態調査

本市課題の整理

1 受入体制の強化

本市観光の喫緊の課題として、観光客が快適に観光し、滞在できる受入体制の強化が挙げられます。受入体制の強化を望む意見は事業者アンケートやワークショップ意見のほか、観光関連団体等からも寄せられているところです。

本市が選ばれる観光地として、快適で質の高い旅行体験を提供し、更なる観光需要の取り込みを図るためには、多様化、複雑化する国内外の観光客のニーズや動向に対応した受入体制の強化が必要となっています。

2 二次交通、渋滞対策

観光動態調査では、本市滞在中に不満を感じた項目として、「市内移動のしやすさ」が 33.5%と最も高く、その他「渋滞」、「駐車場の不足」等が挙がっています。事業者アンケート評価結果やワークショップ意見も同様の傾向であり、市内滞在中の観光客の満足度向上や周遊促進のため、二次交通、渋滞対策が必要となっています。

3 情報発信の強化

観光動態調査では、本市への来訪契機として「元々本市を知っていた」との回答が全体の約7割を占め、本市観光情報サイトや SNS 等の観光情報による来訪は低い状況です。

市全体で誘客促進につながる効果的な観光情報発信やプロモーションの強化が必要となっています。

4 宿泊・滞在時間の延長につながる取組の推進

観光動態調査では、本市を訪れる観光客は「日帰り」が 52.1%と最も高く、宿泊を伴う旅程では「1泊2日」が 24.8%と最も高くなっています。

宿泊先エリアは市内が約半数の 50.2%となっており、次いで県内他市、北九州市を含む福岡県、広島県等となっています。また、事業者ワークショップでは、宿泊率の低さと宿泊につながるイベントの不足が弱みとして抽出されており、観光産業の稼ぐ力を高め、観光消費額の拡大につなげていくためには、魅力的な観光コンテンツの開発など、滞在時間の延長と宿泊先として選ばれる取組が求められます。

5 観光産業の DX 化

本市においても少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少が進む中、観光産業においても労働力不足や経済の縮小に伴う観光消費の低迷が懸念されます。これらに対応し、観光産業の生産性の向上や経営の高度化のためには先進的なデジタル技術等の活用を図りながら観光分野の DX の推進が求められています。

6 市民自身が楽しむ機会の創出

市民意見聴取会では、地域住民視点での下関の魅力発信が十分でない、市民が積極的に観光に関与出来る環境が整えられていないとの意見が寄せられました。

市民には観光ガイドやインバウンドサポーターのほか、観光資源の保存、伝統文化の伝承など、日常生活や活動を通じて観光を支えていただいています。更に多くの方に関わっていただくためには、市民自身も観光資源を存分に楽しむ機会を創出することを通じて、下関の魅力をもっと知っていただき、「自分もまた行きたい、人に紹介したい」と感じていただくことが大切です。

7 連携の推進

本市では各地域の観光関連団体等を中心に誘客促進や情報発信の取組が進められています。また、北九州市や長門市等と協働した誘客促進等の取組は一定の成果を上げているものの、事業者ワークショップでは、市内外との連携の不足が弱みとして抽出されており、関係団体、第一次産業及び小売業などの関連産業との更なる連携の推進が必要との意見も多く寄せられたところです。

人口減少が進む中、持続可能な観光地づくりの観点からも関係団体や関連産業のほか、行政区分や市内各地域の垣根を越えた、連携による観光振興施策の展開が必要となっています。

ビジョンの基本的な考え方

本市が目指す観光地像

観光を取り巻く現状の分析や観光関連事業者ワークショップでの検討を踏まえ、本市の産業の柱の一つである「観光」の目指したい姿を次のとおり設定しました。

多彩な魅力に感動が生まれる 「にぎわい観光都市 下関」

本州最西端に位置する海峡都市「下関」

様々な歴史の転換点となる出来事が下関を舞台に繰り広げられました。

歴史をはじめ、自然、景観、食など多くの魅力的な資源を有しています。

この多彩な魅力を余すことなく、観光関連事業者等と一体となって発信し、
感動を生むことのできる都市を目指します。

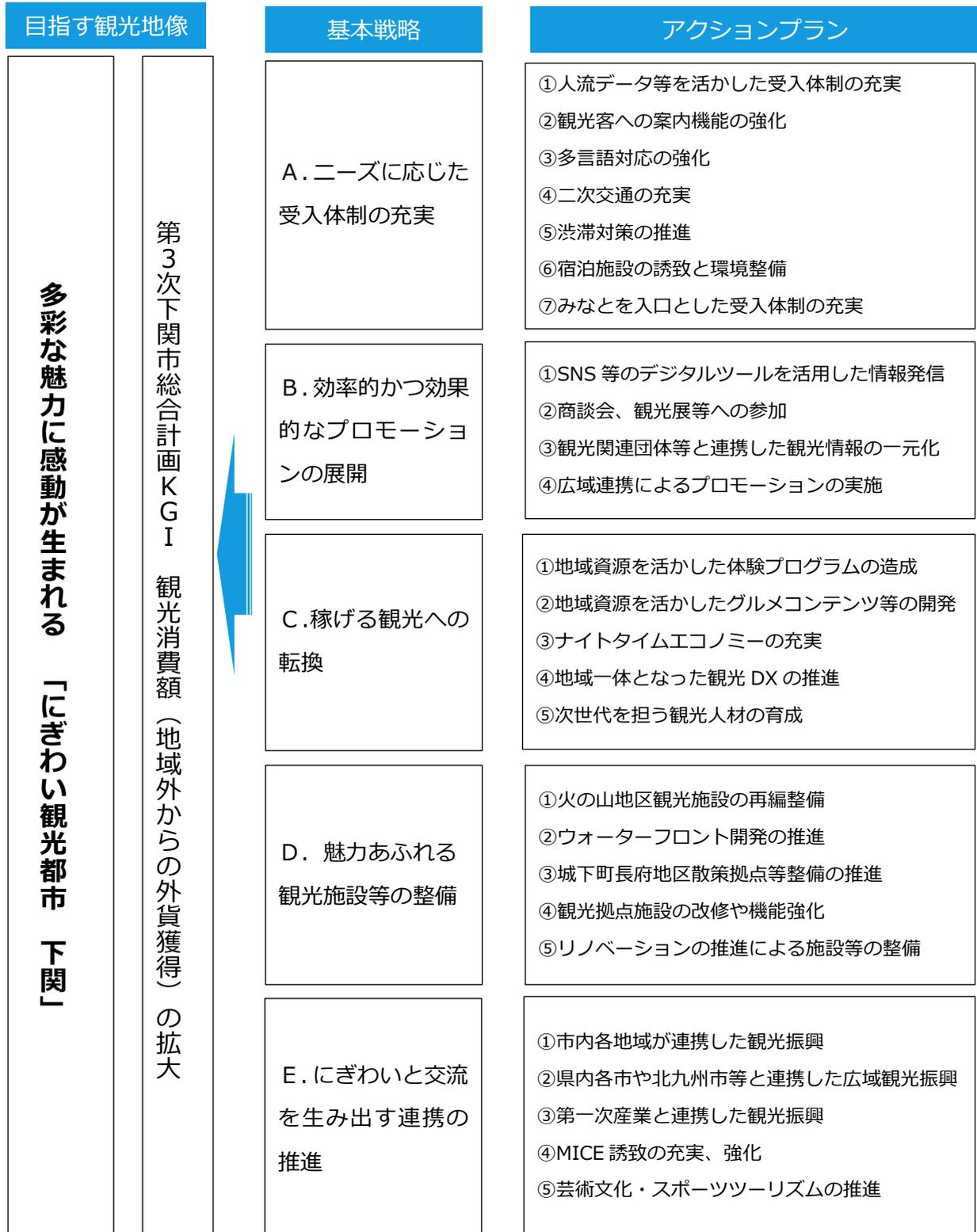
そして交流・連携を通じて

地域住民や訪れる人々にとって更に魅力的な“にぎわい”のある都市を共に作っていきたい。

これが本市が目指す観光地像です。

体系図

本市が目指す観光地像と、その実現に向けた5つの基本戦略、そしてこれを推進していくための施策の方向性を示したアクションプランを体系図として整理しています。



具体的な施策・事業例

基本戦略 A. ニーズに応じた受入体制の充実

①人流データ等を活かした受入体制の充実	人流データ等を活用した受入体制充実のための施策検討や検証
②観光客への案内機能の強化	観光案内所等の機能強化及び観光ガイド等の育成等
③多言語対応の強化	案内表示や WEB サイトなどの強化等
④二次交通の充実	レンタカーの利用促進、送迎バスの共同運行、新たな交通手段の検討等
⑤渋滞対策の推進	駐車場情報の発信強化等
⑥宿泊施設の誘致と環境整備	宿泊施設の誘致、高付加価値化やユニバーサルツーリズムの促進、バリアフリー化に資する改修等への支援
⑦みなとを入口とした受入体制の充実	国際フェリーターミナルの利便性向上等

基本戦略 B. 効率的かつ効果的なプロモーションの展開

①SNS 等のデジタルツールを活用した情報発信	「旅マエ」、「旅ナカ」、「旅アト」に働きかける情報発信等
②商談会、観光展等への参加	国内外でのイベント等への積極的な参加、効果的なエージェントセールス等
③観光関連団体等と連携した観光情報の一元化	サイト等の統合などによる観光情報の一元化
④広域連携によるプロモーションの実施	「西のゴールデンルートアライアンス」や山口デスティネーションキャンペーンの展開による県内外各市との連携等

基本戦略 C. 稼げる観光への転換

①地域資源を活かした体験プログラムの造成	プロモーション等を通じた販売促進や事業者連携等の支援
②地域資源を活かしたグルメコンテンツ等の開発	新鮮な農林水産物や魅力ある地域産品、「ふく」を活かしたグルメコンテンツ等の開発
③ナイトタイムエコノミーの充実	海響館や歴史的建造物等のライトアップによる良質な夜間景観の創出や夜間早朝イベント等の造成
④地域一体となった観光 DX の推進	オンライン予約やキャッシュレス決済などの推進等
⑤次世代を担う観光人材の育成	地域における財源、人材等の資源の安定的な確保等の官民連携

基本戦略 D. 魅力あふれる観光施設等の整備

①火の山地区観光施設の再編整備	山頂部の展望デッキや芝生広場、アスレチック、キャンプ場などの整備等
②ウォーターフロント開発の推進	海響館の長寿命化改修や魅力向上のための展示リニューアル、歴史的建造物等のライトアップによる良質な夜間景観の創出等
③城下町長府地区散策拠点等整備の推進	長府苑やその周辺の観光資源等の回遊性を高める歩行者空間の整備等
④観光拠点施設の改修や機能強化	各観光施設の利用者の安全、安心に配慮した改修等
⑤リノベーションの推進による施設等の整備	「デジタルノマド」の誘致促進、空き家等を活用した交流滞在拠点等の整備支援等

基本戦略 E. にぎわいと交流を生み出す連携の推進

①市内各地域が連携した観光振興	城下町長府地区、吉田地区、各総合支所管内の様々な観光スポットや温泉などを活用した周遊促進プラン等の開発
②県内各市や北九州市等と連携した広域観光振興	長門市をはじめとした県内各市のほか、北九州市や福岡市、更に山口県と連携した観光コンテンツの創出等
③第一次産業と連携した観光振興	地域産品の開発やイベントの造成、農林漁業体験プログラムなどの観光プラン等の開発
④MICE 誘致の充実、強化	各種 MICE 誘致の推進、宿泊の増加につながる観光プラン等の開発
⑤芸術文化・スポーツツーリズムの推進	芸術文化イベントやスポーツイベントの誘致促進及び観光プラン等の開発

数値目標

《定量指標》

目標指標	基準値(2023年)	目標値(2029年)
① 観光消費額	578.2億円	928.2億円
② 観光客数	5,718千人	10,000千人
③ 宿泊客数	789千人	1,000千人

《定性指標》

目標指標	基準値(2023年)	目標値(2029年)
④ 観光客満足度 (食べ物)	75.1%	80.0%
⑤ 観光客満足度 (観光スポット)	39.4%	50.0%
⑥ 来訪興味度	28.2%	50.0%

○指標補足

- ・ ①は 2023 年度観光動態調査の日帰り旅行単価に観光客数を乗じた額と宿泊旅行単価に宿泊客数を乗じた額の合計で算出
- ・ ②、③は本市観光客数調査(暦年)の観光客数及び宿泊客数
- ・ ④、⑤は観光動態調査において、旅行先の選定にあたり、特に重視される傾向にある「食べ物」と「観光スポット」に対して満足と回答した割合
- ・ ⑥は、観光動態調査において、本市への来訪履歴のない方へ「下関市に観光で訪れてみたいと思うか」という問いに「思う」と回答した割合

